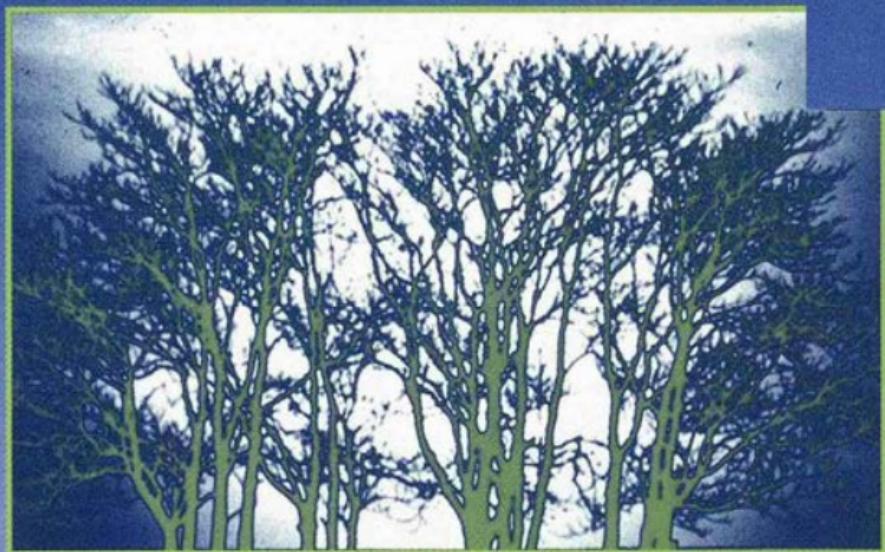




# 地球サミット +5



アジェンダ21の実施を  
検討・評価するための  
国連特別総会

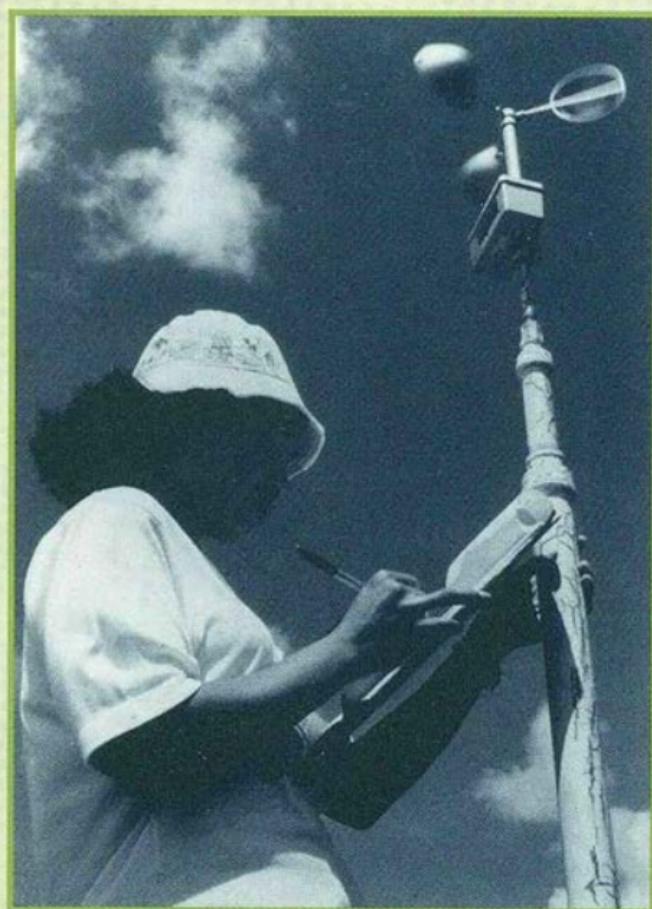
ニューヨーク

1997年 6月23-27日



国際連合

持続可能な開発を世界中で促進するための行動が、1997年6月23日から27日にかけてニューヨークで開かれる国連特別総会の中心的テーマになります。



「地球サミット+5」と呼ばれる今回の特別総会には各国の政府首脳の出席が予定されており、1992年にブラジルのリオデジャネイロで開かれた「国連環境開発会議」、通称「地球サミット」で採択された「アジェンダ21」やその他の公約の実施を再検討し、評価することになっています。「アジェンダ21」には、21世紀に向けて環境の悪化を防ぎ、地球上で持続可能な生き方の基盤を確立するための戦略が定められています。

「特別総会では、リオデジャネイロでの会議以来何がなされ、何がなされなかったのかを冷徹に、正直に、そして批判的に検証すべきである。」とラザリ・イスマイル国連総会議長は述べています。「私たちは、地球サミットを誕生させた盟約を思い出し、もう一度それについて強調する必要がある。」

## 「地球サミット+5」の目的

- 地球サミットでの再検討では、次のことを行う予定です。
- \* リオデジャネイロ会議以降に、持続可能な開発について達成された全世界での進歩を評価する
- \* 世界中の人々の努力によって実を結んだ事例に光を当てて、持続可能な開発がうまくいくことを証明する
- \* リオデジャネイロで設定された目標が必ずしも達成できなかった理由を明らかにし、それを正す措置を提案する

- \* 資金調達や技術移転、生産と消費のパターン、エネルギーの利用と輸送、淡水の不足などの特殊な問題に光を当て、今後に取るべき措置の優先順位を定める
- \* 持続可能な開発に対する熱意を新たに表明するよう各国政府、国際機関や主要団体に求める

## 地球サミット後

1992年、地球サミットに出席した172カ国の政府代表は、経済・社会開発を推進しながら環境を保護するためには緊急措置が必要とされていることに合意しました。同サミットでは、次にあげる3種類の主要文書が採択されました。

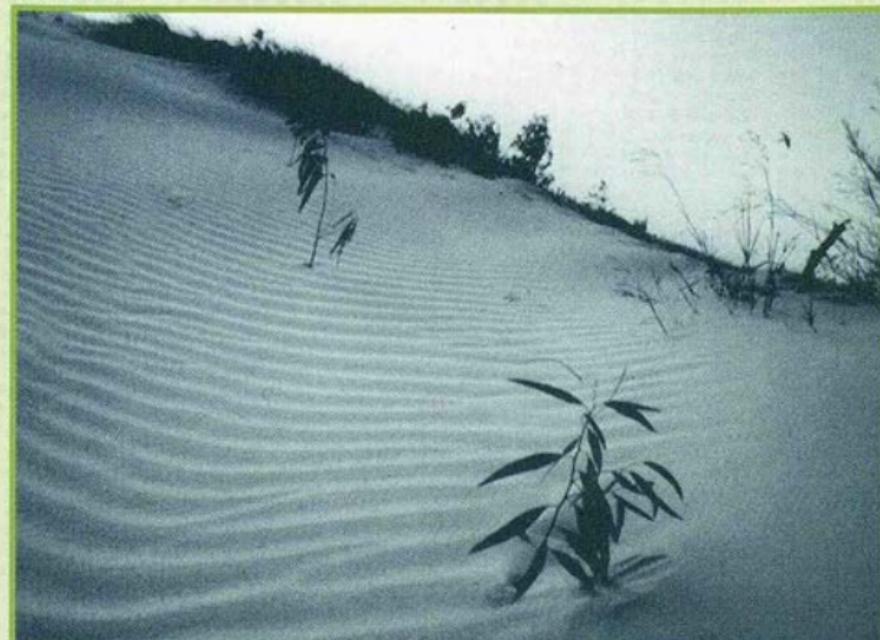
- \* 「アジェンダ21」—持続可能な開発のあらゆる分野において世界的にどのような措置をとるべきかについての包括的な計画
- \* 「環境と開発に関するリオ宣言」—国家の権利と責任を定める一連の原則
- \* 「森林原則」—世界の森林の持続可能な管理に関するガイドライン

国連は「持続可能な開発に関する委員会（CSD）」を設立して、「アジェンダ21」とリオ会議で明言された他の誓約の実施を監視し、指導しています。

地球サミットの結果、国連は次にあげる措置をとりました。

- \* 「小島嶼開発途上国の持続可能な開発に関する世界会議」を招集しました。（1994年5月）
- \* 「砂漠化に関する国連条約」成立のための交渉を行いました（1996年12月26日発効）
- \* 「回遊魚類に関する国連協定」成立のための交渉を行いました。（1995年12月4日に批准のため開放）

1995年には、世界中の森林で持続可能な管理を促すために、持続可能な開発に関する委員会によって「森林に関する政府間パネル」が設立されました。



「生物多様性条約」と「気候変動条約」の2種類の国際法上の協定が、リオデジャネイロで批准のために開放され、その後に発効しました。



## 「地球サミット+5」のための準備

「持続可能な開発委員会」が、「地球サミット+5」および関連の催しを準備する中心的な役割を担っています。

1997年には、ニューヨークで次にあげる2つの公式的な準備会合が開かれます。

- \* 2月24日から3月7日にかけて、持続可能な開発に関する委員会の会期間特別アド・ホック作業部会
- \* 4月7日から25日にかけて、持続可能な開発に関する委員会の第5回会期

これらの会合では、特別総会で採択される文書について各国政府が交渉を行います。各国政府、国連の諸機関、世界の主要グループが特別総会の準備として、世界での進捗状況を評価するために数多くの催しを行っています。

## NGOの参加

1992年にリオデジャネイロで開催された地球サミットは、それまで国連の催しではかつてなかったほどの数多くの非政府機関（NGO）や主要グループが参加し、豊かな成果を得ることができました。こうした組織の参加は、持続可能な開発において市民社会が果たす役割が重要視されていることを反映したもので、持続可能な開発に関する委員会は、いまもその役割を重視し続けています。

「アジェンダ21」は、リオ合意を世界的に実施していくうえで、次にあげる9つの「主要グループ」を政府のパートナーとしてあげています。

- \* 女性
- \* 農民
- \* 青少年

- \* 労働組合
- \* 企業・産業
- \* 地方自治体
- \* 科学者
- \* 先住民族
- \* 環境と開発の問題に取り組んでいるNGO

1997年にニューヨークで開かれる公式準備会議の開催期間中には、これら主要グループが主催する数多くのイベントも並行して行なわれる予定です。持続可能な開発に関する委員会の4月の会期には、1週間にわたって行われる主要グループとの一連の対話も含まれています。6月の特別総会の期間中には、特別のパネルディスカッションや展示、その他の活動が企画されています。

## 「地球サミット+5」では、次のような情報が集まります。

- \* 成功例 — 「アジェンダ21」を実行に移す措置をとり、地域社会の持続可能性を高めた世界各地の人々の例。
- \* トレンドレポート — 過去25年間にわたる持続可能な開発における主要トレンドと、それが今後に及ぼす影響についての国連の分析。
- \* 包括的レポート — リオ会議以来の成果と失敗の評価。21世紀に向けた優先課題を明らかにする。
- \* 国別プロフィール — 各国が、地球サミットの協定を実行に移すために何をしたかについての報告。

## 背景

「地球サミット+5」のルーツは、環境問題を初めて国際的アジェンダに載せた1972年の国連人間環境会議に溯ります。1983年には、経済開発とそれが環境に及ぼす影響の関係が、国連世界環境開発委員会、通称「ブルントラント委員会」の調査テーマになっていました。同委員会は1987年に出した報告書、『われら共有の未来』において、持続可能な開発を「将来の世代のニーズを満たす能力を損なわずに、現在のニーズを満たすこと」と定義づけ、環境と開発を統合するための戦



略が必要であると述べました。その結果、国連総会は1989年、この戦略を策定するための会議を開催することを決定し、国連環境開発会議、すなわち地球サミットが1992年6月3日から14日にかけてリオデジャネイロで開かれたのです。

## 詳細な情報については、下記にご請求ください：

*CSD Secretariat*

*Division for Sustainable Development*

*Department for Policy Coordination and  
Sustainable Development*

*United Nations*

*2 UN Plaza, 22nd floor*

*New York, NY 10017, USA*

電話：(212) 963-3170

ファクス：(212) 963-4260 または963-1267

Eメール：[dpcsd@un.org](mailto:dpcsd@un.org)

[waller-hunter@un.org](mailto:waller-hunter@un.org)

*Development and Human Rights Section*

*Department of Public Information*

*Room S-1040*

*United Nations*

*New York, NY 10017, USA*

電話：(212) 963-4295 または963-1786

ファクス：(212) 963-1186

Eメール：[vasic@un.org](mailto:vasic@un.org)

*UN Media Accreditation*

*Department of Public Information*

*Room S-250*

*United Nations*

*New York, NY 10017, USA*

電話：(212) 963-6934

ファクス：(212) 963-4642

「地球サミット+5」に関する情報は、インターネットのホームページ：

<http://www.un.org/dpcsd/dsd.htm> でも提供されています。

Published by the UN Department of Public Information

Printed by the United Nations Reproduction Section ,

New York

DPI/SD/1864—96-33625—January 1997—20M